

第8回「震災対策技術展」東北において講演および展示を行いました(2017/8/3-4)

テーマ：災害に強いまちづくり・自然災害・震災技術
場 所：仙台市 AERビル 5・6階
URL：<https://www.shinsaexpo.com/tohoku/>

平成 29年8月3日（木）・4日（金）の2日間にわたり、東日本大震災の教訓を後世に伝え、災害に強い社会の構築を目指す目的で、第8回「震災対策技術展」東北—自然災害対策技術展—が開催され、産・官・学の防災関係者が参加しました。「震災対策技術展」は 1997 年の神戸開催以来、日本各地で開催されており、災害科学国際研究所は東北での開催を後援しています。

当日は、当研究所の今村文彦 所長（災害リスク研究部門・教授）による基調講演に始まり、東日本大震災からの復興や災害に強いまちづくり、震災対策の最新技術など、4会場に分かれてセミナーが行われました。当研究所からは、今村所長のほかに、越村俊一 教授（災害リスク研究部門）、田所諭 教授（地域・都市再生研究部門）、丸谷浩明 教授（人間・社会対応研究部門）がそれぞれ講演しました。あわせて、会場では展示 WG による当研究所の研究・活動と、今年 11 月に開催される『世界防災フォーラム』を紹介するポスターおよび資料展示が行われたほか、3D 映像体験コーナーを地震・噴火予知研究観測センターと共同で設置しました。当研究所の展示ブースには 210 名の訪問があり、研究活動や世界防災フォーラムについて活発に意見交換が行われ、大変有意義な展示となりました。

セミナー講演タイトルは、以下のとおりです（講演順）。

【講演】

- ・今村文彦 所長・教授「東日本大震災の教訓と今後の防災対策 — 津波災害などを中心にして」
- ・越村俊一 教授「津波浸水被害予測技術の展望」
- ・田所諭 教授「能動スコープカメラ：これまでの実績と今後の取り組み」
- ・丸谷浩明 教授「事業継続計画(BCP)を貴社の目的に合わせて作成するために」

会期中に両日合わせて 3,845 名の方々が来場し、活気のある展示会となりました。



今村所長による基調講演



災害科学国際研究所展示ブース

文責：安倍 祥（寄附研究部門）